

1 - 4 準備会議の運営及び情報公開のあり方

1. 準備会議の審議結果の情報公開(案)

1) 議事録の公表

議事録は、概要について記者発表とホームページ上で公表する。また、議事録の詳細は閲覧可能とする。

なお、議事録の公表にあたっては、事務局が出席委員の確認を得たものとする。

【参考】

詳録版

【藤田委員長】 多分、浅見委員のご発言と関連すると思うんですね。ほんとうにダメージを受けて、く回復しないのか、あるいは少し、今、河川管理者がおっしゃったように、何らかの形で、治水のため工事をしたけれども、それにプラスアルファの何かをすれば回復する。それは、やっぱり回復するといふうに考えなければならない、多分そのあたり、これは非常に考え方も難しいと思うんですね。だから、今回は特に幾つかの案を比較しようということですから、ある程度頭の中で回復を自分なりに、例えば5年なんだから10年なんだからかというのを思い浮かべながら評価して、その中で一番、次に持っていく案に取れたいという、そういうことではないかというふうに思います。

そのほか、何かございませうか、どうぞ。

【中農委員】 今の話のほう、私も見ていて「影響は小さい」が多過ぎるんですね。だから、比較のしようがないんです。さっき言われたところもそうですけど、例えば21ページのところで、オギ群集のことについても、B・C案についても影響は少ないなっていますし、上のO案についても影響は小さいなっていますし、下の文章を見れば、それはそうかとわかるんですけど、ですから、表現はやっぱりちょっと工夫されたほうがいいんじゃないかと思うんです。影響は、当初はあるけどもというように、あるけども将来回復するとか、その程度はやっぱり書かないと、すべて影響は小さかったら比較できないですね。

【藤田委員長】 多分、細かいところではそういうふうな表現はされているんですよ、この小さい、どうぞ。

【宮武事務所長】 すみません。わずかな差はありますが、その表、使用上の注意を誤りますと副作用がありまして、ちょっとだけ申し上げますと、これは比較するものではないんです。考えられる案というのが19個、並んでいましたでしょうか？ これはあほかというやつは、8つ、削り落とした。残ったやつは、ある程度現実味のあるやつ。だけど、ぼつと見、そうなんですけど、ほんとうに現実、現場でやっていたときに影響がないかどうかということ、一個一個、事前に大まかに、大きな問題がないか、あるいは大きな空物はなにかとチェックしていた。これはあまや関係ない項目です。だから、影響が小さいというものは、比較しづらいというんじゃないかと、これはあまや関係ない項目なのかなと思つていた。ただし、なおざりにするつもりはありません。この案の中から、あるいはこの案の組み合わせで、夜回、地元の方、来週来にずつと回っていきませうかと、そこでいろんな要望とか、いろんな意見が聞けると思います。それをうまくクリアでできる案というものを、次回、それを踏まえて提案したいと思います。

これは本気の案になりますので、考えられる案とか複数の案とかじゃありません。これでもいいという案になりますから、これは影響が小さい、小さいほどの程度、これは何とかなるのという議論に今度入ってきます。すなわち、この表の見方は、そういう意味で見ていただかないとちょっと副作用が出てきますので、ご注意ください。

【藤田委員長】 ありがとうございます。

【田中丸委員】 先ほどから議論になっている箇所ですけれども、多分、表現の仕方を統一するという意味で、括弧つきの影響は小さいとして、将来的には回復する可能性が高いというパターンが多用されているんだと思うんですけども、先ほどから議論があったように、例えば同じ回復にしたって、二、三年で回復するのと回復に30年かかる、50年かかるというのを同じようにとらえると非常に難しく、例えば将来的には回復可能性があるが、その回復には50年かかるというのをもっと影響は小さいという表現は非常に難しいと思うんです。とすると、やはりこのスライドを第三者が客観的に見たときに非常に解釈が難しいので、ここまで表現のパターンを統一化するのにはちょっと難しいんじゃないかという思いをいたしました。

【藤田委員長】 ありがとうございます。今回はこのスライドで、我々、説明を聞いたということですので、今後、住民の側に持つことによって説明をして、またパブリックコメントということで意見を伺われるということですから、我々の委員会としては、そこに持つていくべきときには少し表現の工夫をされたいというのがございませう。ご意見で一つとめておきます。

概要版

第24回 揖保川流域委員会 議事録（概要）

■日 時：平成20年1月29日（火）13:00～16:00

■場 所：たつの市青少年館 ホール

■出席者：委員13名（〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員）
国土交通省19名、自治体関係者11名、一般傍聴者29名（計72名）

1. 今回の議題について

議題 ・揖保川河川整備計画段階における環境影響等分析報告書(案)について

2. 環境影響等分析計画書(案)について

【説明概要】 前回の第23回委員会での意見を踏まえ、河川管理者より「揖保川河川整備計画段階における環境影響等分析報告書(案)」の説明が行われました。

【意見および質疑応答】

1. 環境要素の分析結果について
委員からの主な意見は以下のとおりです。

○環境整備の具体的な方策について、「魚道の改善による連続性の確保」とありますが、魚道が設置されていない箇所が多いのに、上下流の連続性は確保できるのですか。

一河川管理者からの回答

魚道の改善を提案していますが、現時点では改善の対象の堰、改築の方法はまだ具体的なには示していません。次回、魚類の生活史、生態を踏まえた魚道改善の検討方法、魚道がない堰については設置の必要性の検討も含めご提案します。

○丸石河原の再生は可能なのか疑問です。

一河川管理者からの回答

丸石河原は数年に一度の定期的な攪乱により維持されてきましたが、土砂の堆積により消失している部分があります。そこで、増水時に水が勢いよく流れ流れるような河床掘削の方法を検討し、揖保川で試みたいと考えています。

○（揖保川15k～27k区間の丸石河原の変遷の写真を見ながら）写真で見ると、平成11年に河原が急激に減少し植生が増加していますが、丸石河原の再生にあたってこの現象の原因を究明する必要があると思います。

一河川管理者からの回答

仮設ですが、昭和22年より全国の河川で川底が深くなったため、河川敷の攪乱が減少し、土砂堆積、樹林化が進行したのではないかと考えます。

○（揖保川15k～27k区間の丸石河原の変遷の写真を見ながら）丸石河原が減少しているところ、左岸側の丸石河原は、堰直下でできた砂州です。注目すべきはこの砂州ではないかと、平成11年まで河原として残っている右岸側の丸石河原です。

○丸石河原が減少した原因のひとつに、全国的に1960年代の宅地開発の進行により、土砂が河川に流入し、堆積したと思います。

○希少種、重要群落について、3つの視点があります。一つめはメダカのような場を整えることで容易に再生できる種、二つめは特殊な環境に生育・生息するため、環境そのもの